



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

2026 年 9 月 3 日

体験支援 現場レポート

当財団では 2025 年 9 月から、埼玉県下の生活にお困りの子育て世帯を対象にした「体験の機会の場の提供」を開始いたしました。周りの環境によって子どもが得られる体験に格差が生じる体験格差。学校外での体験をほとんどできていない子どもも存在し、体験の有無が、子ども達の将来に私たちが想像する以上に深刻な影響を与えているのかもしれません。日常とは違う体験が、子ども達に自信や可能性を感じる機会となり、様々な体験活動を通して、生きていく上で重要な内面的な能力を育むことができるきっかけになるような、子ども達がワクワクするような体験提供を支援してまいります。





公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

「また行きたい！」があふれた 3 日間

御殿場・東山荘 宿泊キャンプ

2026 年 8 月 23 日（日）～25 日（火）、埼玉 YMCA 様のご協力のもと、御殿場・東山荘にて 2 泊 3 日の宿泊キャンプを実施しました。参加したのは、埼玉県内の子ども食堂・フードパントリー等から参加した小学 1～6 年生約 28 名。初めて会う仲間や大学生リーダーと一緒に、自然の中で遊び、歌い、ものを作り、2 泊 3 日の生活を共にしました。



自然の中で「やってみる」

2 日目には、寒沢の源流を訪ねるネイチャープログラムを実施しました。冷たい沢の水に入り、滝に打たれたり、滝つぼに飛び込んだり、丸太を渡ったり。少し怖くても、自分のペースで一步踏み出してみる。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

その先にあったのは、

「できた!」

という経験でした。

保護者アンケートにも、

「沢登りは怖がってできないかなと思っていたけれど、挑戦できたと聞いて成長を感じた」

「知らない人との交流も怖くない、楽しいと思えたようです」

「一人で行くことを怖がらなくなった」

など、子どもたちの成長を感じる声が寄せられました。



一人ひとりの「好き」を大切に

キャンプでは、28 名がいつも同じことをするわけではありません。虫が好きな子は、夢中になって虫を探す。おにごっこをしたい子は、思い切り走る。少し一人でいたい子は、自分のペースで過ごす。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

大学生リーダーや埼玉 YMCA スタッフは、子どもたちを無理に同じ行動へ合わせるのではなく、一人ひとりの気持ちを受け止めながら、必要なときにそっと寄り添っていました。



思い出になった「かやの実ホイッスル」

クラフトでは、前年に実ったかやの実を冷凍保存しておき、その種を使って「かやの実ホイッスル」を作りました。中の白い実を丁寧に取り出し、薄皮まできれいにし、穴を開け、紐を通してペンダントにします。簡単ではない作業ですが、自分で完成させたホイッスルは特別なもの。気に入って、翌日も首から下げている子もいました。





公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

「また行きたい」「もっと泊まりたかった」

キャンプ終了後、保護者の皆様にアンケートをお願いしました。17 件の回答のうち、キャンプ前後で
お子さまの変化を

「とても感じる」7 件

「少し感じる」8 件

と、約 88%の保護者が何らかの変化を感じていました。帰宅した子どもたちからは、

「また来年も行きたい!」「友達がいっぱいできた!」「もっと泊まりたかった」「キャンプファイヤーが
一番楽しかった」

という声がたくさん聞かれました。

家でもキャンプソングを歌い続けている子、リーダーとの別れが寂しくて涙を流した子もいました。

「僕も将来、埼玉 YMCA のお兄さんみたいになりたい」と、新しい目標を見つけた子もいます。





公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

子どもだけで過ごすことも、大切な体験

保護者からは、

「親と離れて3日間過ごせたことが自信につながった」

「自分のことは自分ですという自立心につながってほしい」

「子どもたちなら大丈夫、と親自身も子どもの力を信じるきっかけになった」

という声もいただきました。

子どもたちが普段顔を合わせている大人から少し離れ、初めて出会う仲間や大学生リーダーと過ごす。自分で考える。

困ったときには助けを求める。

知らない人に話しかけてみる。

そんな一つひとつも、宿泊体験だからこそ得られる大切な経験です。





公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

子どもたちの「できた!」を、これからも

2泊3日を終えた子どもたち。

たくさん遊び、たくさん笑い、たくさん歌い、少したくましくなって帰ってきました。

「楽しかった」だけでなく、

「やってみた」

「できた」

「またやってみたい」

という気持ちを持ち帰ってくれたことを、とても嬉しく思います。

子どもたち一人ひとりを温かく見守ってくださった埼玉 YMCA の皆様、大学生リーダーの皆様、そして参加につないでくださった埼玉県子ども食堂ネットワーク・埼玉フードパントリーネットワークの皆様、心より感謝申し上げます。

ヤオコー子ども支援財団は、これからも子どもたちの心に残り、自信や未来につながる体験を届けてまいります。

